

## 『学部学科講話』 報告と生徒感想

日時：平成28年11月10日(木)

第一部 13:40～14:40

第二部 15:05～16:05

本校では毎年、2年生を対象として『学部学科講話』を行っています。この行事では、様々な学問分野の大学教授の方々に来校していただき、生徒は希望に応じて講義を受けます。講義を通じて、生徒が学問への関心を高め、進学へ意識を向けるきっかけを得ることを目的としています。本年は第1部、第2部合わせて18分野の講義が開かれました。

1	歴史・考古	10	文学
2	語学・国際	11	心理学
3	法学・政治学	12	経営学
4	看護	13	医療科学(リハビリ)
5	化学	14	情報
6	教育学・教員養成	15	応用生物
7	電子・電気・機械	16	保育学
8	社会福祉学	17	健康科学(スポーツ)
9	栄養学	18	建築

### 〈講義の様子〉



### 生徒の感想(抜粋)

- ・自分は法律にはガチガチに堅いイメージを持っていましたが、「リーガルマインド」という言葉を聞き、自分なりに法律を解釈できるということを知り、答えは一つではないということがわかりました。1つでも多く、法律・権利を学び、使える権利は使えるように学んで行ければいいなと思います。
- ・自分が自宅で看取られたいと思っても、自宅では痛みをどうにもできなかつたり、家族への負担が大きかつたりして、なかなか望み通りにならないということがわかりました。最後をできるだけいい形で迎えられるように、患者さんの話を聞いたりして、寄り添ってあげることが大事だとわかりました。
- ・自分で靴をデザインして布や加工方法を選ぶと、生地の色や良い悪い特徴を考慮しなくてはならず、難しいと思ったけれど一度自分でも作ってみたいくなりました。

- ・話を聞いて、今ある仕事の約50%が10~20年後には機械に代替されるという話にすごくびっくりしました。その中で教師という仕事は残っていくと言う話だったので、教師というのはそれぐらい大切な仕事なんだなと思いました。
- ・私は栄養学はもっと難しいことばかりだと思ったけれど、分かりやすく興味をもちました。今の人がお茶碗を持つ理由とか考えもしなかったことについて考えてあり、おもしろいところ目をつけて調べたりするのは楽しいと思いました。
- ・文学の講師の方で、“言葉をあやつる”ことを毎日大学生に講義している先生でした。だからこそお話ししていると、言い方ひとつでニュアンスが変わり、講師の先生の話はとてもおもしろかったです。考えたこともなかったけれど、言葉ってしっかり読み取ったらおもしろいんじゃないかと思いました。文学に少しだけ興味を持ちました。
- ・クイズがいろいろあって、飽きない講話だった。法則を見つけることは難しいが、それを見つければ解決までが早くなるということがわかりました。何事も法則を見つけて効率の良い仕事や作業をしたいと思いました。
- ・経営の講義は自分の進路に一步近づけてくれる講義でとても充実していました。自分も部活でキャプテンをやっていて、人の動かし方、人にやる気を出してもらうためにどうしたらいいかと日頃悩んでいます。今日の話聞いて、内発的動機を誘うことはとても難しく、外発的動機をきっかけとして、最終的に内発的になることがベストかなと考えました。
- ・治療後の患者に寄り添い、障害を治すというのはすごく専門的で、誰にでもできることではないから、魅力的な仕事だなと思いました。手を持つにしても痛くない持ち方などに気をつけていて、すごいなと思いました。ちょっとした持ち方や力の入れ方、方向の違いで伸びが全然変わっていて、すごかったです。正しく治療するには正しい技術が必要だとわかりました。
- ・この講話を聴いて、情報工学には情報デバイスの土台となるデバイス、奥行きと広がりがある情報処理、情報通信、情報メディアといった4つの分野があることを知り、今後の進路選択の参考になりました。専門用語が非常に多く、大学で学ぶ内容も多いのだろうと思いました。
- ・保育というのはただ単に子供と遊ぶだけでなく、「親子の人生と付き合う」ということなんだなとわかりました。保育園や幼稚園の時期はこれからの人生の土台となり、発達していく中で本当に大切なんだなと思いました。その大切な時期を私たちが預かるということだから覚悟が必要になると思います。
- ・建築は、ただ設計するわけではなく「どうしたらこの空間に多くの人に来るか」までも考えて設計しているとわかりました。また、席の作り方・配置などでその空間で求められているものを知ることができるということもわかりました。これからは日常生活の中でも、この空間はどういう意図を持ってつくられたのかなどを考えていきたいと思います。